

2.

ひとつたりとも おろそかにできない命」不戦の道を探って

広島平和の祈り・平和行進 2006 に参加 2006.8.5.

平和を愛する人は幸い 「ひとつたりとも おろそかにできない命」



「命 どう 宝・ぬちどうたから」
戦争は人間の仕業 平和は正義の業 愛の実り
剣は鋤に 槍は鎌に 打ち直そう
弓をくだけ 槍も盾も 焼き払おう
戦争は 愚かなこと
ヌチドウ タカラ ヌチドウ タカラ
与えられた あらゆるもの 命を大切にしよう

命どう宝（ぬちどうたから）[沖縄].

何を置いても命こそが大切であるとの意味。



2006.8.5. 広島 平和公園周辺

平和の像・原爆ドーム・カソリック平和記念聖堂(平和の祈り)

今年も 広島は8月が巡ってきた。日に日に「平和憲法」「非核・不戦の誓い」は形骸化してゆく中で、広島は8月6日 原爆が投下されて61年を迎える。「二度と核の過ちは繰り返さない」の思いは強いが、今年ほど 戦争の恐怖が現実を感じられたことはない。「鉄」の材料屋の私には「鉄は産業の米 鉄が社会を進化させ 文化・文明を育んだ」という思いと「穢れと戦い」を知らない日本人の祖先(縄文時代)に「戦い」を持ち込んだのは「鉄と稲作」(弥生時代)との思いがいつも交差しています。

今「不戦」の意思表示をしたくて 8月5日広島で開催された「広島平和の祈り 2006」に参加し、講義・対話そして平和の祈り・平和行進を通じて、平和について多くの人たちと分かち合い「不戦」の意を新たにして帰ってきました。

景気は回復したというが、世の先行きになんとなく 不安が付きまとう

まったく中身の無いキャッチコピーにおどらされ、心地よい言葉に酔いしれる

キャッチコピーのイメージと現実のギャップ 仲間だと思っていた自分に疎外と不安感が荒涼とひろがり、

「自由・平等」「改革」「多数決 民主主義」の裏に「弱者切捨」「格差社会」の現実が忍び寄る

多数派に乗らないと生きてゆけない社会なんて異常である。

こんなはずではなかったのに・・・こんな評価の大逆転が日常茶飯事

一億総中産階層と高度成長・物質の豊かさを満喫した社会から雇用不安・弱者切捨の厳しい格差競争社会が目の前にある。戦争も高度成長・物質の豊かさ 一億総中産階層になるために払ったさまざまな代償の大きさが忘れ去られ、経験のないその豊かさだけを享受してきた無気力・自己中心的な年代が中心となる社会へと移りつつある。小学校では電卓をたたいて足し算が教えられるし、OX・結果重視のデジタル万能 質・感性は問わないという。「癒し 心 グリーンエコ」の言葉が薄っぺらに飛び交い いつの間にか目的と手段がそっくりすりかえられてゆく。「ゆとり・自由」とは「無責任放任」「正義」と「平和」のことばが死語化し、世界各地では戦争が勃発し、国内では弱肉強食の「勝者の論理」がまかり通っている。

老年のわれわれには次のような切実な思いがある。

『何で一握りの勝者のために 踊らねばならぬのか・・・』

あまりにもイメージの違う社会に 早く 舵をきりなおさねば・・・』 と。

なぜ武器を取らねばならないのか 何のために

本当にアジテーションされているように「不戦・非核は本当に問題解決の論拠とならないのか・・・」

何十年経ての歴史の答えは常に「ばかげた戦争 戦争が問題をより複雑にした」と・・・

何十年 何百年かかろうとも 「核・戦争 力の論議」は必ず破綻する

被爆の経験はありませんが、映画「原爆の子」や「許すまじ 原爆を」の歌 そして 広島原爆を撮った幾多の写真が頭に焼き付いているのですが、でも だんだん忘れて 今の時代の論議についつい引きずられていた私 そんな 意識を頭に「不戦」をもう一度考え、その意思表示をしたくて 8月5日広島で開催された「広島平和の祈り 2006」に参加し、平和についての講義・対話そして平和の祈り・平和行進を多くの人たちと分かち合い「不戦」の思いを新たにしてお帰ってきました。



平和の像



平和行進 2006.



平和の祈り 2006.

私の参加した「広島平和の祈り 2006」は私の属する日本聖公会(英国国教会)の集まりで、本年は 8月5日6日カソリック教会と合同で平和の祈り・平和行進を行いました。

広島では8月6日原爆投下後 61年を迎え 街には数多くの人たちが平和を祈るため訪れ、数々の集会がこの時期開かれていました。公式的な平和行事とは別に 今行動を起こしたくて・・・と個人で広島を訪れた人たちが多いのにはびっくりでした。

もう 時間がないという高齢の人 孫をつれたひと そして 若者 それぞれが、それぞれのスタイルで・・・
広島で感じたのは あの阪神大震災のときに感じたのと同じ仲間全体に広がる共感意識

ひとりひとりが こだわりを捨て ひとりになって はっと気づいた共感

「ひとつたりとも おろそかにできない命」



2006 広島平和行進 2006. 8. 5. 夕 平和公園→広島市街地→平和記念聖堂

「平和を妨げている要素は自分中に 原因ルーツを自分に求めれば、相互の共感が解決の道を生む

「ひとつたりとも おろそかにできない命」それが「平和の原点」と聞きました

「主の平和がありますように」とキリスト者は唱えますが、

十字架にかけられたキリストがそれでも説いた「汝の敵を愛する」

武器では何にひとつ解決しない 聖戦なんて存在しないし、十字軍の過ちをまた犯してはならない

「ひとつたりとも おろそかにできない命」・「不戦・非核」を原点にすることこそが、「平和の道」

心はまだ 揺れ動いていますが、そんな思いをあらたにして 帰ってきました。

「主の平和がありますように」

2006.8.5. 「広島平和の祈り2006」に参加して

Mutsu Nakanish